

.NET Architecture Forum

デベロッパーのための オーケストレーション 完全ガイド

新連載

BizTalk Server って知ってますか？

NRIラーニングネットワーク株式会社
溝端 二三雄 MIZOBATA, Fumio

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
BizTalk Server

Level

Samples

（アプリケーションの 新たなる進化）

「オーケストレーション」という言葉をご存知でしょうか？ オーケストレーションとは、複数のXML Webサービスを組み合わせる機能を指す言葉です。XML Webサービスへの注目度が高まるにつれ、この言葉の認知度も上がってきました。しかし、オーケストレーションの機能は、XML Webサービスのためだけのものではありません。マイクロソフトは.NETにおけるオーケストレーションの位置づけを、ビルディングブロックサービスを組み合わせる機能として定義しています。ビルディングブロックサービスとは、XML Webサービスに代表される、さまざまなサービスのことです。ということは、オーケストレーションによって組み合わせられる機能を、XML Webサービスに限定していないのです。これはアプリケーションの新たなる“進化”へとつながる重要なポイントです。つまり、これまで当たり前だと考えていた方法を、異なる方法で実現することによって大き

なメリットを得ることが可能になるのです。これが、すなわち“進化”です。しかし、そこを理解しない限り、これまでどおりの方法を当たり前だと考えて使用し続けることになるでしょう。

今月より6回にわたって、オーケストレーションの機能を提供するBizTalk Serverによってもたらされる、アプリケーションの新たなる進化の詳細を解説してゆきます。

（BizTalk Server って難しい？）

悲しいことに、BizTalk Serverは難しい製品だと考えている方が多いようです。たしかにアプリケーション統合を行なうのは容易ではありません。

各アプリケーションはさまざまな機能を、さまざまな方法で、さまざまなプラットフォームを用いて実現しています。これら千差万別のアプリケーションを連携するわけですから、すべての方法やプラットフォームが提供する機能を理解しなければなりません。たしかに容易なことではありません。

さらに、企業間のアプリケーション統合ともなればもっと複雑ですし、RosettaNetに代表される、その分野独自の技術も関連してきます。しかし、これらの背景はひとまず考えないことにして、BizTalk Serverだけを考えると、実はそれほど難しいものではありません。

BizTalk Serverが提供する機能は以下の2つが中心です。

- BizTalkメッセージングサービス
データ（メッセージ）のフォーマットとスキーマの変換を行なう機能
- BizTalkオーケストレーションサービス
ビジネスプロセスのオーケストレーションを設計、開発、実行する機能

解説があまりにも簡単すぎて、どんな機能なのか想像できない方もいるかもしれません。たとえそうであっても心配ご無用。とにかくBizTalk Serverとは「データ変換を行なうこと」と、この連載のテーマである「オーケストレーションを行なうこと」、この2つができるサーバー製品であることがわかれば大丈夫です。

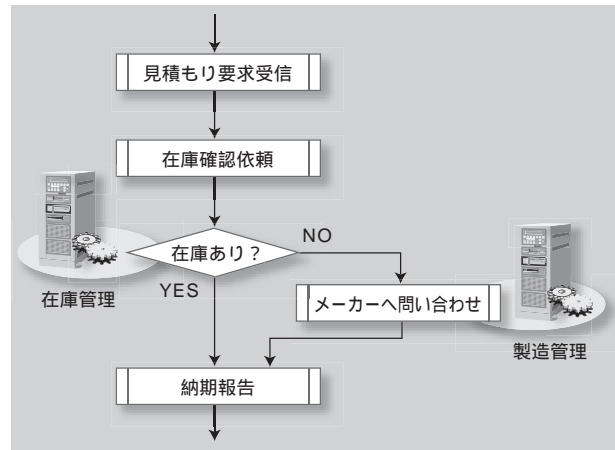
たった2つの機能を理解すれば、BizTalk Serverを理解したことになるワケですから、何も難しいことはありません。さらに、これら2つの機能を利用してアプリケーション統合を行なうのが、BizTalk Serverの役割だと考えるのが普通です。もちろんそれは間違いではありません。けれども、BizTalk Serverの“できること”はそれだけではありません。

今回はBizTalkオーケストレーションサービスの概要を解説します。概要を理解すれば、BizTalk Serverがアプリケーション開発に役立つポイントがいくつか見えてきます。

相手はビジネスプロセス

最近よく耳にする「ビジネスプロセス」ですが、ちょっと漠然としていてイメージが湧きにくいかもしれません。そこで「業務処理」と直訳してみると、何を意味するかを実感できるのではないのでしょうか。要は販売管理や在庫管理、製造管理や財務管理といった、業務処理をビジネスプ

図1：ビジネスプロセスオーケストレーション



ロセスと呼んでいるのです。

これらのビジネスプロセスを組み合わせるのが、オーケストレーションの機能ですが、単に組み合わせるだけではなく、ここにはフロー制御も要求されます。

たとえば、図1はビジネスプロセスを連携することによって、販売支援を行なうアプリケーションの一例です。見積もり要求を処理する際に、対象商品の在庫がなければ、メーカーや製造部門に問い合わせる処理が追加されることになっています。

このように、オーケストレーションは単にデータを受け渡すことによるビジネスプロセス間の連携だけではなく、処理の流れ（業務フロー）を定義し、実行する機能を持ちます。また、オーケストレーションによって実行される業務フロー自体も、ビジネスプロセスといえます。

さて、ここで一般的なビジネスプロセスの特徴をひとつだけ挙げておきましょう。ビジネスプロセスの特徴はいくつかありますが、ひとつだけ挙げるとすればこれでしょう。

頻繁に変更される

そうなのです。厄介なことに、ビジネスプロセスは常に変更のリスクを負っています。人事異動、組織変更、法改正、新しいアプリケーションの導入などなど、さまざまな要因によって、ビジネスプロセスは変更されることとなります。もし、企業間でビジネスプロセス連携を行なう場合、相手企業の都合によって変更されることも多いはずで